

特定健診・がん検診の予約

忘れていないですか？



日本人の2人に1人は、がんや心臓病、脳卒中などの生活習慣病が原因で亡くなっています。これらの生活習慣病は、定期的に検査をしていれば早期発見により治療できる可能性が高いですが、さまざまな理由から健診を受けていない人がいます。年に1回健診を受けることは、からだの異常の早期発見のためにとっても大切です。

【予約方法】

◆電話予約（町健康福祉センター）

電話番号：0859-72-1852

（平日 午前8時30分～午後5時15分）

こんな人は要注意！



元気だけん、
自分には必要
ないわぁ

☑️ がんをはじめ、生活習慣病の多くは初期には自覚症状がありません。血圧や血糖値などが高くても、特に痛みや異常を感じないことがほとんどです。自覚症状が現れたときには、かなり深刻な事態にまで進行しているため、健康に自信がある人でも、きちんと健診を受けることが大切です。

☑️ 特定健診やがん検診は、通院中の人でも対象になります。病院に通っているからといって、決して油断してはいけません。かかりつけ医に相談し、必要な検査は確実に受けるようにしましょう。

通院中だけん、
受けんくても
いい



具合が悪くなったら
病院に行くけん、
大丈夫

☑️ 「自覚症状が現れたので病院に行ってみたら、すでに重症化していた」というケースは珍しくありません。脳卒中や心筋梗塞など、何の前触れもなく突然発症してしまうケースもあります。

【問合せ先】町健康福祉センター（電話 72-1852）

高齢者の肺炎球菌ワクチンの費用助成を行っています

日常でかかる肺炎の原因菌で最も多いのは「肺炎球菌」です。肺炎は高齢になると急激に症状が進むことがあります。元気なうちにできる予防法として予防接種を受けましょう。

令和4年度高齢者肺炎球菌ワクチン接種対象者

①令和4年度内に以下の年齢になる人。対象者は、誕生日前でも接種可能です。

対象者	対象生年月日
65歳	昭和32年4月2日生まれ～昭和33年4月1日生まれ
70歳	昭和27年4月2日生まれ～昭和28年4月1日生まれ
75歳	昭和22年4月2日生まれ～昭和23年4月1日生まれ
80歳	昭和17年4月2日生まれ～昭和18年4月1日生まれ
85歳	昭和12年4月2日生まれ～昭和13年4月1日生まれ
90歳	昭和7年4月2日生まれ～昭和8年4月1日生まれ
95歳	昭和2年4月2日生まれ～昭和3年4月1日生まれ
100歳	大正11年4月2日生まれ～大正12年4月1日生まれ

▼今までに1度も接種したことがない人が対象です。対象となる年度においてのみ、定期接種として公費助成が受けられます。

▼接種を希望する人は、かかりつけ医にご相談ください。

▼受診券を紛失した人は再発行しますので、ご連絡ください。

※新型コロナワクチンの接種とは2週間以上の間隔をあけてください。

接種対象期間：

令和5年3月31日（金）まで

接種費用：自己負担額 2,000円

問合せ先：町健康福祉センター

（電話 72-1852）

※対象者には、令和4年4月に受診券・案内文を送付済です。

②60歳以上65歳未満の人で、心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障がいがある人

健診で分かる肝臓がんのなりやすさ

—FIB-4 を用いた肝臓がん高危険者の拾い上げ事業—

日野病院 病院長 孝田 雅彦

日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。



ウイルスだけじゃない？
肝臓がんの原因の変化

肝臓がんは、日本人のがん死亡原因の第5位です。これまでの町報でも何度か肝臓病についてお知らせしてきましたが、今回は昨年からは日野郡・西伯郡で行っている、肝臓がんになりやすい患者さんの拾い上げと定期検査についてお知らせします。

肝臓がんの原因は、30年前はC型肝炎ウイルスとB型肝炎ウイルスが90%を占めていました。その後、抗ウイルス剤の進歩によりC型肝炎はウイルスを排除することができるようになり、B型肝炎ではウイルスの活動をとめることによって、

ウイルス性肝臓がんは年々減少しました。

ところが、最近ではウイルス以外の肝臓がんが増えています。最近3年間の鳥取県の肝臓がんの60%は、ウイルス以外が原因です。

高危険者を発見する

FIB-4インデックス

では、このウイルス以外による肝臓がんの原因は何でしょうか。

それは、脂肪肝とアルコールが半分半分です。しかも、これらの患者さんはウイルス性肝臓病の患者さんとは異なり、日ごろ肝臓病として病院に通院していないため、肝臓がんが発見されたときには手遅れが多いため、治療が困難です。

そこで、鳥取県肝臓がん対策専門委員会では、非ウイルス性の肝臓がんの高危険者を見つける方法として、FIB-4インデックスを使用することにしました。これは、健診で測定される肝臓検査のASTとALTと、医療機関で測定する血小板から計算できます。

FIB-4が2.67以下

上の人は、2.67以下の人より6倍から11倍、肝臓がんが発症しやすいことが分かっています。役場から健診（特定健康診査、後期高齢者健診）で生活習慣病のある患者さんは、FIB-4を測定することを勧め、めする通知が来ますので、かかりつけ医の先生に通知をお渡しし、ぜひ受けてください。後日、FIB-4の結果を役場から報告します。

FIB-4が2.67以上であった高危険患者さんは、医療機関で精密検査（超音波検査、腫瘍マーカー）、また、年2回の定期検査を受けることが大切です。

高危険の人では、年に1%、つまり10年で10%、20年で20%の患者さんに肝臓がん



が発症します。FIB-4値が高ければ高いほど発がんの頻度は増加します。

毎年の定期検査は特に重要です。定期検査は血液検査と超音波検査だけです。決して苦しい検査ではありません。日ごろかかりつけ医に診てもらっているも、腹部超音波検査をしないければ肝臓がんは見つかりません。必ず定期検査を受けるようにしてください。

肝臓がんは早期に発見することによって、10年、20年と長生きができる時代になりました。簡単な検査です。ぜひ一度FIB-4の測定をお勧めします。

